

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200335		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム向町		
所在地	岩手県宮古市向町2番34号 坂下賃貸ビル3F		
自己評価作成日	令和3年8月6日	評価結果市町村受理日	令和3年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様が居心地よくゆったりと過ごせるように、それぞれのペースに合わせてのケアを職員は心掛けている。市街地にあり立ち寄りやすく、ご家族の面会他ボランティア訪問も多いが去年からのコロナ禍で現在は制限されている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社は沿岸地区を中心に地域密着型の介護施設を経営している。事業所は宮古市街地にある7階建てのビルにあり、1階はデイサービス、2階は会社、3、4階がグループホームとなっており、利便性に恵まれ家族や知人の面会など気軽に来やすい場所である。コロナ禍の今は感染予防対策に細心の注意、配慮を心がけている。以前は小・中学生との交流や近所のスーパーに出かけて買い物をしていたが、人的交流の制限によりできなくなっている。外出は、通院、散髪以外はなく、外出気分、地域情報番組を録画し、みんなで懐かしんでいる。コロナ禍の収束状況に応じ、地域との交流の再開を心待ちにしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年9月10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の見える場所に理念を掲示している。不安な時、迷った時など理念を振り返って実践している。	平成30年の開所時に、家庭的な雰囲気での生活の実践を意識して作成した。不安のある利用者に寄り添い一緒に生活することをモットーにしている。5年目に向けて職員と理念の見直しを考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア訪問他、買い物など近所のお店を利用し交流を持っている。現在は必要な場合以外は外出、交流を控えている。	コロナ禍により、小・中学生との直接的交流を中止しているが、職員と先生がメッセージの受け渡しを行なって、小学生と利用者との交流を続けている。終息してから、他の事業所や近所のお店へ出かけることを楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設からの活動はないが、認知症の相談などあった場合は随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員に現状報告、広報等を配付し書面開催としている。	自治会長、民生委員、市の担当者等で構成され、入居者の現状や行事の報告など行われている。令和2年から書面開催となっている。	書面開催の際であっても、委員から意見や質問などをいただくが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	緊急時他、相談事は日頃から連絡を取っている。運営推進会議の書面提出時は直接、実状を報告している。	日頃から、市の担当者とは事業所の現状報告、待機者の紹介などで連絡を取り合っている。特に、大雨警報発令の際、避難勧告が出た場合にはホームの対応などについて、電話、メールで相互に連絡を取り合い、利用者の安全確保に特に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月毎に身体拘束適正化の会議を開催し、ケアを振り返り話し合っている。利用者の安全上、センサーなどを使用する場合はご家族に了承を得ている。	2カ月毎に身体拘束適正化の委員会を開催している。また、身体拘束のセルフチェックを行い集計結果を委員会に報告し、身体拘束しないケアに繋げている。転倒経験のある入居者に家族の了解のもとでセンサーを使用しているが、今のところ転倒は見られていない。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	申し送り、連絡帳で情報共有し利用者様の状態を全員で把握し、日々の介助の中で虐待に当たらないかを検討し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている利用者はいないため施設内での研修はしていない。今後、必要に応じて研修の機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お話を伺い十分な説明をし契約内容を理解と納得していただいたうえで契約の締結をしている。料金改定時は必ず口頭で説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会他、ご家族への連絡の際に利用者様の近況を伝え意見、要望等は聞き入れている。内容は職員間で共有し支援している。	入居者の殆どの方は、言葉で意見や希望を話すことができる。外出したい、家族と会いたい、リンゴが食べたいなどの要望を汲み取っている。家族とは電話で近況を報告したり、面会時に意見や要望を聞いている。通院時に同行する家族からは、受診の様子などを聞き介護に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りで、提案、意見交換の場を設けている。連絡帳に記録し情報共有を図っている。	朝の引継ぎ、申し送りに提案や意見交換の場を設けている。意見は連絡ノートに記録し職員間で共有しており、意見をもとに敬老会などの行事で使用する法被やゲーム、遊具を購入し、身体的な支援に活かしている。介護福祉士などの資格取得に会社として支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望、要望等は可能な範囲で応え、無理のない勤務体制をとっている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に可能な限り参加するようにしている。参加した職員は内部研修として報告し職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協会の会議他、研修等の参加が減っているため交流機会も減っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の状況をご家族、サービス関係者に情報を得ている。ご本人にも面会して不安、要望等の確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思い、要望を理解し話しやすいような和やかな対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーと必要な支援を見極め、今後を想定してのサービスの提案もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来ることを見つけ一緒に取り組む。一人一人その人らしく生活出来るよう関りを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る範囲での通院の付き添い、電話、面会等の協力をお願いしている。		

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店など、出来る範囲で関わりを持てるよう支援に努めている。	近所の理・美容院やスーパーを馴染みにしている方もいる。コロナ禍により女性6人は近所の美容師が来所し、3名の男性入居者には理髪店が訪問整髪している。隣の米屋さんやスーパーに時々出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係、性格を把握し、負担なく過ごせるように目配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の相談等はないが、ご家族にお会いした際は挨拶をして近況を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとりながら、本人の意向や思いを理解し、気づいたことは職員間で共有している。	殆どの入居者は、言葉で意思を伝えることができる。表情や仕草から意向をくみ取り、気づいたことは連絡ノートに記入し職員間で共有している。○○が食べたい、家族に電話したいなど、その都度対応している。事業所では地方新聞を購読しているが、全国紙を読みたいとの要望もいただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に、ご家族様からの聞き取りをしている。ご本人との関わりの中で得た情報は職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで、その日の過ごし方と心身状態を把握して支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とご家族の意向、要望等を確認し介護計画を作成している。定期的なカンファレンスで話し合い現状の見直しをしている。変化があった場合はその都度ご家族へ報告している。	計画作成担当者は、入居時に主治医の意見書、実態調査票に加え、本人と家族の意向等を確認し、介護計画の原案を作成している。介護計画は生活、健康、心理に配慮した個別特性がみられる内容となっている。モニタリングは短期で3か月毎、長期で6か月毎とし、定期的な職員カンファレンスで見直しを行っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、毎日の申し送りでの気づきを定期的なカンファレンスで話し合い、見直しをして支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じ通院他、緊急時は状況に合わせて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交流の機会が減っているが、近所の美容室に散髪してもらうなどできる範囲での交流を続けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の全員が入居前からのかかりつけ医を継続受診している。日頃の様子、変化等ご家族、医師に伝えている。	入居前からの開業医をかかりつけ医とし、全員が継続受診している。家族が同行して受診の場合は、バイタル記録を持参してホームでの状態を報告し、受診後には家族から結果を聞き取り、通院記録や申し送りで共有している。職員が通院対応し、病状に変化のあった場合には、家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化など、看護師に相談し適切な対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院関係者に必要な情報を提供し、経過をみながら退院後の生活をご家族と病院関係者と相談している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた方針を説明し理解を得ている。対応できる範囲でご家族の希望に応じている。	重度化した場合には、他施設等への住み替えを基本としており、入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明し理解を得ている。入院中に重度化した場合には、病院の医療連携室と連絡を取り合い、地域のリハビリ病院や特別養護老人ホームの空きを探すなどしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は緊急時対応マニュアルで説明している。経験を重ね落ち着いて判断し対応できるようになってきている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回、昼夜を想定して火災避難訓練と年1回、津波の日に水害を想定して避難訓練を実施している。同ビル住民と地域住民との協力体制を築いている。	毎年2回火災訓練を行っており、6月に火元を台所に想定して実施した。ハザートマップでは洪水浸水区域になってはいるが、7階建ての事業所が入るビルは、市の避難ビルの指定を受けている。今年も3月11日に避難訓練を実施し、地域住民との協力体制を確認した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時はノックと声掛けをしている。入浴、排泄等はプライバシーの確保に配慮し対応に気を付けている。	入居者のプライドに配慮した対応を心掛けている。まずは、それぞれの入居者の話を聴き、肯定的に対応している。入浴や排泄で失敗しても、他者に見られないようにその場で対応している。誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねることのない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望、要望等は可能な範囲で対応している。話には耳を傾け自己決定できるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の、その日の体調や気分に合わせて一人ひとりのペースで過ごせることが出来ている。職員はゆったりとした雰囲気を大切にしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に近所の美容室に来ていただきカットしていただいている。昔からの馴染みの床屋を利用している利用者様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は手作りのメニューも取り入れている。出来る方には食材の下ごしらえも手伝っていただいている。他、季節のものを提供するなど食事を楽しめるようにしている。	基本的に冷食が基本であるが、ご飯とみそ汁は、手作りしており、お昼は、出来るときには手作りの食事に行っている。入居者も下ごしらえ、食後の片付けなどを手伝い、職員と一緒に食べている。誕生会のケーキは楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量は毎食、チェック表に記録して把握している。利用者様の状態に合わせ食事形態の変更もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い義歯の方は夜間、洗浄剤を使用し清潔保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で確認し個々に合わせ、声掛けと誘導している。日中はトイレで排泄できるよう支援している。	7名の入居者の方は、職員が手を添えれば歩いてトイレに行ける。排泄チェック表で確認しながら、個々に応じた支援を行っている。食事前誘導は耳元で声を掛けたり、習慣性を把握し排泄を促している。乳製品を食べたり、10分間の軽体操を毎日行い、排便を促す取り組みも行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で確認し、状況に応じて下剤を使用して便秘を解消している。日頃からヨーグルトなど乳製品を提供して予防に取り組んでいる。他、ラジオ体操を日課として体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基本としているが、個々の希望に合わせて時間、曜日は臨機応変に支援している。	入浴は3日に一度、週2回を基本としている。1日3名、午後の入浴として、ゆっくり時間をとっている。入浴を嫌がるときは、時間や日を変えたりして、本人の意向に配慮した入浴支援を行っている。入居者は、職員との会話や歌を楽しみながら入浴している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝他、食後の休息など個々のペースで過ごされている。日中は皆様ホールで過ごされていることが多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個人別にすぐに確認できるようにしている。変更あった場合は看護師に報告と通院録で職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には食事準備、洗濯干し等手伝っていただいている。レクリエーションは歌、ゲーム等日替わりで行い楽しみごと、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は制限しており通院、散髪以外はほとんど外出していない。通院は数名ご家族の協力を得ている。	通院、散髪以外はほとんど外出していない。通院の帰り、気分転換に、海を眺めたり、アイスクリームを食べたりしている。テレビで地元の映像を見て昔の思い出話をするすることがあり、利用者は、外出を心待ちにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方はなく、ご家族より預り金として施設で管理している。要望があった時は買い物に同行、代理で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人よりご家族と話したい時は、いつでも電話をできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり手作りの装飾を飾って季節を感じていただけるようにしている。換気、湿度、室温に気を配っている。	ホールは南と東側に大きな窓があり、広く開放感がある。感染症対策でホールで過ごす時間が多く、職員はカルタや軽体操、歌唱などに工夫を凝らしている。テーブルや椅子の配置は、座っても横になってもくつろげる様にしている。壁には季節に応じた入居者の作品を飾っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム向町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者で会話をしたりテレビを見て過ごされる方、ソファでゆっくりとされる方と思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人とご家族の意向に合わせ、持ち込みたいものを持ってきていただいている。	ベッド、クローゼット、小箆箆が備え付けられ、床暖房、エアコンも設置されている。整理整頓がなされており、家族写真や思い出の品を飾り、それぞれの我が家となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に合わせ出来ることをしていただいている。一人ひとりの状態に合わせての支援、見守りをして安全に暮らせるよう努めている。		